

間文化現象学プロジェクト

第3回 シンポジウム

統一テーマ

精神

日時：2011年3月24日(木) 10時～17時30分

会場：立命館大学 衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム

<プログラム>

10:00～11:00

瞬間の自己性

The Selfness of the Instant

野間 俊一 (京都大学精神医学教室)

<略歴> 1994～1996年にかけて、ドイツ、ヴュルツブルグ大学精神療法・医学的心理学研究所にて研究に従事。現在、京都大学医学部附属病院精神科神経科助手。著書に『身体の哲学 / 精神医学からのアプローチ』(講談社、2006年)、共著に『エスとの対話－心身の無意識と癒し』(新曜社、2002年)がある。また、論文は「否定の身体－現代精神医学におけるメルロ＝ポンティの可能性」(『思想』、2008年)など他多数。

11:20～12:20

ALSとレヴィナス－コミュニケーションの限界値について

ALS and Levinas - the Limit of the Communication

村上 靖彦 (大阪大学)

<略歴> 日本大学国際関係学部准教授を経て、現在、大阪大学大学院人文科学研究科准教授、エラスムス・ムンドゥス・マスタープログラム：ユーロフィロソフィー講師。著書に『自閉症の現象学』(勁草書房、2008年)、*Lévinas phénoménologue*, Jérôme Millon, 2002、また共著に *Emmanuel Levinas: La question du livre*, IMEC, 2008 がある。また、論文は、「回有名とその病理」(『現代思想』、2011年)など他多数。

13:50～14:50

「野生の精神」と間文化性

The Wild Mind and Interculturality

廣瀬 浩司 (筑波大学)

<略歴> 現在、筑波大学大学院人文社会科学部研究科准教授。著書に『デリダ－きたるべき痕跡の記憶』(白水社、2006年)、共著に『知の教科書 デリダ』(講談社、2003年)、共訳に『ミシェル・フーコー講義集成〈11〉主体の解釈学 (コレージュ・ド・フランス講義 1981-82)』(ミシェル・フーコー著、筑摩書房、2004年)、『死を与える』(ジャック・デリダ著、筑摩書房、2004年)がある。また、論文は、「反精神医学の闘士」と自己の「現実」－フーコー『精神医学の権力』と制度の臨床現象学 (『現代思想』、2010年)など他多数。

15:10～16:10

レヴィ＝ストロースとメルロ＝ポンティ

－自然と文化の区別から生まの精神へ、そして両者の間文化的な含意－

Levi-strauss and Merleau-Ponty: from the Nature-Culture distinction to Brut Spirit and their intercultural Implication

劉 国権 Kwok-ying Lau (香港中文大学)

<略歴> パリ第1大学 (パンテオン・ソルボンヌ) にて哲学の博士号を取得。現在、香港中文大学教授。共著に *Phenomenology 2010: Selected Essays from Asia and Pacific v. 1: Phenomenology in Dialogue with East Asian Tradition*, Zeta Books, 2010 および *Identity and Alterity: Phenomenology and Cultural Traditions*, Königshausen & Neumann, 2007、編著として *Husserl's Logical Investigations in the New Century: Western and Chinese Perspectives*, Springer, 2010 がある。また論文として "Intersubjectivity and Phenomenology of the Other: Merleau-Ponty's Contribution", in *Space, Time, Culture*, 2004 および "Jan Patočka: Critical Consciousness and Non-Eurocentric Philosopher of the Phenomenological Movement", in *Essays in Celebration of the Founding of the Organization of Phenomenological Organizations*, 2003 など他多数。

16:30～17:30

間文化的理解と非言語的思考

Intercultural understanding and non-linguistic thinking

ディーター・ローマー Dieter Lohmar (ケルン大学)

<略歴> ケルン大学教授。著書に *Phänomenologie der schwachen Phantasie: Untersuchungen der Psychologie, Cognitive Science, Neurologie und Phänomenologie zur Funktion der Phantasie in der Wahrnehmung*, Springer, 2008 および *Edmund Husserl's 'Formale und transzendente Logik'*, Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 2001、共著に *Das Selbst und sein Anderes: Festschrift für Klaus Erich Köhler*, Verlag Karl Alber, 2009 がある。編者として *Späte Texte über Zeitkonstitution (1929-1934): Die C-Manuskripte (Husserliana Materialien)*, Springer Netherlands, 2006 および *E. Husserl: Phänomenologische Psychologie (SS 1925)*, Studienausgabe Meiner, 2003 など他多数。

※ 当日は邦訳原稿を配布する予定です。

※ シンポジウム終了後、近隣の「かごの屋」にて懇親会を予定しておりますので、そちらも是非ご参加下さい。

【お問い合わせ先】

立命館大学 人文科学研究科事務局

TEL: 075-465-8225 FAX: 075-465-8245 E-mail: jinbun@st.ritsumei.ac.jp

聴講無料

事前申込不要

http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/hss/hss_index.htm